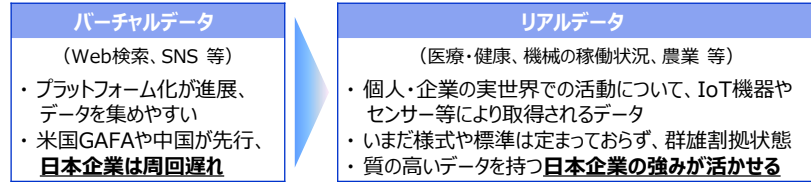


データ利活用戦略による新たなフロンティアの開拓へ ~次世代社会の創造に向けて、経営者はいざチャレンジを~

I. データ利活用の現状認識と各国の動向

- データは**ヒト、モノ、カネと並ぶ資本**となり、**データが経済活動を動かす社会**が到来。データの重要性が高まり、**データ利活用の成否が企業や国の国際競争力を左右する**時代に。
- バーチャルデータの利活用は海外勢が圧倒的な影響力を持つ一方、リアルデータの主導権争いにはまだ勝機あり。日本企業の強みが活かせる領域でもあり、**今こそリアルデータの利活用で巻き返しを図るべき**。

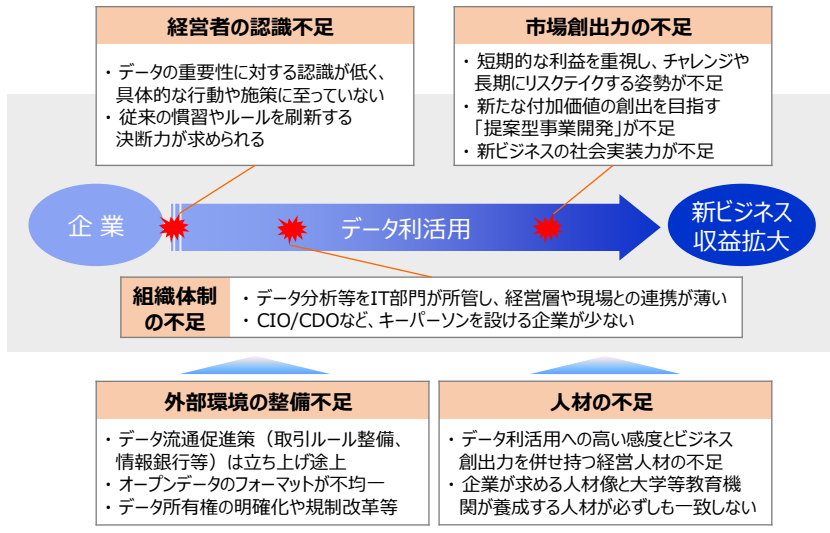


- データ利活用をめぐる**先進諸国の動向**は時々刻々と変化。

ドイツ	製造業等の高付加価値化構想「Industrie4.0」の成果が問われる段階に
E U	「EU一般データ保護規則 (GDPR)」の適用動向に注目
米国	民間主導のビジネス 個人情報保護・データ寡占化の弊害をめぐる議論が活発化
中国	豊富な人材 他国では入手困難なデータも取得可能 新ビジネス・R&D・知財で米国を猛追
日本	「Society5.0」「Connected Industries」構想のもと、制度整備等は一定の進捗

II. 日本企業のデータ利活用における課題

- 多くの日本企業では、業務プロセス効率化を目的としたデータ利活用は一定の成果が見られるものの、**「5つの不足」**によって新ビジネスの創出には十分に至っていないのが現状。



III. 先進事例から見るデータ利活用のポイント

ニーズ	！データ利活用のPoint！	成果
<ul style="list-style-type: none"> 現場ニーズからの着想 顧客ニーズからの着想 	<ul style="list-style-type: none"> データ利活用はあくまでも「手段・ツール」 身近な・小さな課題からでもチャレンジできる 人手をつまく活用する (100%を目指すない) すぐに成果は出ない。長い目で見守るべき 	<ul style="list-style-type: none"> 作業効率化・高度化のみならず、新ビジネス創出・収益機会拡大も 国境を超えたデータ利活用によるグローバル展開の可能性
製造 「一品物」生産効率化 職人技の伝承	「データ重視経営」への転換 (経営者の決断力) 職人技とデータ化の相乗効果	<ul style="list-style-type: none"> 24時間無人稼働の生産システム 納期短縮 ・ グローバル展開
農業 「稼げる農業」の創出 農作業スマート化	ビジネス目線の徹底、「〇〇×IT」の横展開 実戦的な産学連携による知見・人材の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ピンポイント農業散布システム 作物の付加価値向上 ・ 労力削減
小売 レジ精算迅速化 新人店員の早期戦力化	画像識別技術の小売分野への応用 AIが識別できない時は店員が手入力	<ul style="list-style-type: none"> 焼きたてパンのAI会計レジ 就労支援 ・ 他分野への応用可能性
運輸 キャッシュレス決済 マーケティング支援	顧客メリットの実感 (相対情報提供) 現場の創意工夫による改善、投資コストの抑制	<ul style="list-style-type: none"> スマートレジカート/消費行動分析 無人決済 ・ マーケティングの高度化
サービス 飲食業の生産性・CS向上 従業員の人手不足対応	データに基づくサービス等の改善、人と機械の役割の峻別 オープンイノベーション (産学官連携)、補助金等の活用	<ul style="list-style-type: none"> 自動搬送ロボット/生産性向上 接客時間増加 ・ 客単価向上
運輸 ダイヤ改正作業の効率化 バス運転士の人手不足解消	秀逸なデータフォーマット (どのデータを取るか) データ分析担当者が現場オペレーションを熟知	<ul style="list-style-type: none"> バス運行計画支援システム 作業の高度化 ・ 非効率路線削減

IV. 提言

- まずは**経営者自身がAI・IoTなど先端技術活用を自社の最重要課題として捉え、自己研鑽**することから始めるべき。また、データの利活用を目的化するのではなく、**「データを常に課題発見・解決の手段として捉える」**姿勢が重要。
- 加えて、事業および業務プロセスの非連続的な変革、事業のグローバル化を前提としたビジネスモデルの創出、外部人材・ノウハウの更なる活用など、**「次世代社会の創造」を見据えた次のステップにも果敢に取り組むべき**。
- 新たなフロンティアを開拓すべく、**「データ利活用を通じた新ビジネス創出・収益機会の拡大」**へ積極的なチャレンジを。

1. 経営者 現場を直視し、データ利活用に向けたリーダーシップの発揮を

- データ利活用で解決したい**課題・目的の明確化・共有** (データ利活用に向けた社内ビジョンの策定 等)
- データの取得と利活用の好循環を回すべく、現場・顧客視点で**「使っていただける」商品・サービスの開発**
- IT部門と現業部門のカベを低くする**部門横断的な組織設計**と、現場オペレーションとデータ分析のどちらもが分かる**「キーパーソン」の任命・社内育成**
- <行政> データ利活用のあらゆる相談に応える**公的支援機能**の整備 (データ駆け込み寺)

2. 産業・地域 幅広い連携の促進を

- 2025万博**は日本・関西が次世代社会の創造に向けて一致団結する好機。**データ共創の枠組みの形成促進**を (夢洲はじめ関西のデータ利活用先進地域化、先行事業者を軸とした、あるいは地域単位の多様なプラットフォーム形成 等)
- <行政> オープンデータの**加工・整備支援機関**の設置
- <行政> ビジネスのグローバル展開を見据えた**国内外の基盤の早期整備** (データ流通促進策、海外進出支援 等)

3. 人材育成 実戦的な人材育成を

- 求める人物像を明確化すべく、企業と大学等**人材育成機関との間で緊密な連携・対話の継続・強化**を
- 企業と人材育成機関とが協働し、人材育成に取り組む**実地研修の場を拡充** (現場でのインターン、アルバイト 等)
- 「キーパーソン」育成のため、現場人材が先端技術やデータ分析等を学習できる**リカレント教育の拡充**
- 関西に集積する**「知の拠点」**の更なる活用